

【担当教員名】 言語聴覚学科教員全員	対象学年	1	対象学科	言語
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

【<概要>又は<一般目標：GIO>】

言語聴覚士の義務と責任に関する基本的知識、態度および考え方を身に付けるため、言語聴覚障害学の概要、発展の歴史、臨床業務内容そして言語聴覚士法などについて概観し、専門課程における各論学習のための導入として必要な基礎知識を学ぶことを目的とする

【<学習目標>又は<行動目標：SBO>】

1. 言語聴覚障害学の発展の歴史と現状を概説できる
2. 言語聴覚士の業務内容、職場の多様性および職業倫理について概説できる
3. 言語聴覚士法の成立までの経緯を知り、法の内容を説明できる
4. 言語聴覚士が対象とする各領域を列挙しその概要を説明できる
5. 言語聴覚障害研究の方法論の基礎を説明できる

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	言語聴覚障害とは：種類と定義および歴史	1	講義 渋谷
2	言語聴覚士の仕事と職場、言語聴覚士法の内容と成立過程	2, 3	講義 渋谷
3	成人の言語障害とその関連領域	4	講義 杉山
4	小児の言語障害とその関連領域	4	講義 市島
5	言語の発達とその障害	4	講義 市島
6	言葉と脳：コミュニケーションと大脳の仕組み	4	講義 今村
7	人間の音声の成り立ち、音声・言語と脳、聞く仕組みと話す仕組み	4	講義 亀田
8	音韻障害：機能性構音障害と器質性構音障害	4	講義 磯野
9	吃音	4	講義 磯野
10	聴覚障害学の歴史：聴覚障害の定義と種類、言語聴覚士の業務	4	講義 山口
11	鼻咽腔閉鎖機能不全に対する歯科医学的アプローチ	4	講義 大橋
12	摂食嚥下障害と口腔ケア	4	講義 今井
13	高次脳機能障害	4	講義 今村
14	言語聴覚障害研究法	5	講義 相場

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>	
教科書 (必ず購入する書籍)	言語聴覚障害総論Ⅰ	倉内紀子編著	建帛社	2001年	2400円
	言語聴覚障害総論Ⅱ	山崎京子編著	建帛社	2001年	2400円
参考書	声と言葉のしくみ	亀田和夫	口腔保健協会	1986年	1600円
	脳からみた心	山鳥 重	日本放送出版協会	1985年	970円
その他の資料					

【評価方法】

出席、レポート、定期試験等により総合的に評価

【履修上の留意点】

講義主題の順序と担当教員は変更されることがある